

2024

6月

ゆ う ひ ろ ば

遊通信
第 191 号



「遊」の歴代パンフレットを並べてみました
(2024年6月1日会員総会にて)

特集 「遊」のこれからを考える

- 設立 35周年を迎える「遊」のこれから
- 大好きな「遊」の明るい未来を信じて
- 「遊」の運営と事務局
- 「遊」事務局に1年いて思うこと
- 新任理事のご紹介

- … 2
- … 4
- … 6
- … 7
- … 8

寄稿 4学協会の研究倫理指針の脱植民地化に向けて	… 10
講座報告 ハンセン病問題の現在地	… 12
上映報告 筑豊から山谷へ、そして福島原発へと続く棄民の歴史	… 14
リレーエッセイ 私と、さっぽろ自由学校「遊」(第10回)	… 15
連載 タントアナクネピリカ(第10回)	… 16
連載 フィールドワークな日々(第97回・最終回)	… 17
さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ など	… 18

最初から科学技術を肯定的みていたわけではありません。高校生の時に、レーチェル・カーソンの「沈黙の春」や石牟礼道子の「苦海浄土」はありました。高校生の時に、VRアートを楽しむ会を開いています。私たちが取り組んでいるVRアートは、モーテリングではなくVR空間に手書きで描きます。VR機器を使い、空中に立体的な絵を自由に描くことができます。

年前に学生たちと「VRアートを楽しむ会」を開いています。私たちが取り組んでいるVRアートは、モーテリングではなくVR空間に手書きで描きます。VR機器を使い、空中に立体的な絵を自由に描くことができます。

体験会では、子どもから高齢の方まで、みんなが笑顔になります。絵を描く楽しさを取り戻します。発達障害の子どもたちが通っている放課後デイサービス施設で、定期的にVRアート制作体験会を開いています。引っ込み思案でなかなか絵を描こうとなかった子どもが、初めてVR機器をつけてくれた時のことです。最初は、うつむいて小さな絵を描いていたのですが、数分経つと身体全体を使って空中に大きな絵を描き始めました。先生たちも、驚いていました。VRアート制作の確かな可能性を感じました。子どもたちは、今ではインターネットで道外のVRアーティストと一緒にVR空間で絵を描くことを楽しみにしています。新しい技術が人をつなぎ、元気にしています。技術は諸刃の剣ですが、良い面を生かしていく活動に力を入れていきます。

前に学生たちと「VRアートを楽しむ会」を開いています。私たちが取り組んでいるVRアートは、モーテリングではなくVR空間に手書きで描きます。VR機器を使い、空中に立体的な絵を自由に描くことができます。

私は、大学では自らを問い合わせる反差別の活動に力を入れました。アイヌ解放同盟の結城庄司さんと取り組んだ「北海道経済史差別講義糾弾闘争」では、萱野茂さん、砂沢ビッキさんともお会いし、私の人生、世界観を大きく変えました。ネットワーク系ミニコミ「協働者」の1979年創刊につながっています。

大学の近くにあったミニコミ喫茶「ひらひら」では、さまざまな活動と出会いました。「遊」設立の大きなきっかけとなった1989年の「ビーブルズプラン21世紀」とも、「ひらひら」の人的つながりの中で関わることになりました。私は、市民の立場で聞き取り調査を行う「出会いと解放のアクション・リサーチ」を中心に活動しま

した。

個人の自発性を大切にする「ベ平連」の柔らかさと女性解放運動のしなやかさ、そして北海道という地域性。それらが「遊」を育んできたと思っています。



1996年5月25日にミニコミ喫茶「ひらひら」で開かれた「第1回レズビゲイ・プライド・マーチ札幌」第1回実行委員会に参加しました

特集 「遊」のこれからを考える

6月1日に行われた通常総会では、2024年前期パンフレットの表紙問題を中心に、「遊」の在り方について活発な意見が出されました。さっぽろ自由学校「遊」は、来年2025年に設立35周年となります。多くの人たちの努力で続いてきた「遊」は、未来に向けて大きな節目を迎えています。共同代表に就任した2人、事務局の2人、新しく理事になった4人に、自己紹介や、「遊」に対する思いなどを、自由に書いてもらいました。

2024年6月1日に行われた、さっぽろ自由学校「遊」の通常総会では、参加者から「遊」の運営に対する批判が相次ぎました。議長を務めながら、来年2025年に設立35周年を迎える「遊」が、大きな岐路に立っているという思いを強く持ちました。

今回は、総会議案書の2024年度事業活動計画の中に「運営体制について」という項目を設け、理事会としての基本方針を示しました。「さっぽろ自由学校・遊」は、学びの場であるとともに、出会いの場、交流の場です。子どもから100歳を超える人まで、世代を超えた参加交流ができる場として、円滑に運営していくためには、理事会の運営態勢を強化充実していく必要があります」として、(1)「幅広い年代の人を、つなぐ場にする」(2)「講座内容を、ていねいに企画検討する」(3)「理事会の役割と運営を、わかりやすくする」の3章に分けて説明しています。

今後は、総会の議論を踏まえて、理事会などで話し合いが行われます。

「遊」は、個々人の思いを大切にすることが基本です。ARにも同じ可能性を感じています。

2015年からは、VR(バーチャル・リアリティ)を中心、講座を続けています。主にVRをとりあげているのは、私にとって没入型VRの体験が人生最大の衝撃だったことが、大変な理由です。その生々しい体験は「現実世界」をどうえ返す、相対化する大きな契機になりました。

VRは、幅広い分野で活用されていますが、私が今力を入れているのは、VRアートです。8月30日のオンライン講座で説明しますが、

本だと考えています。それぞれの意見を率直に出し合って中で、これから遊の在り方を探つていただきたいと思います。

「遊」のホームページの「過去の講座」「一覧」を見ていただけるとわかりますが、私は2012年から集中的に講座の企画と講師を担当しています。初代のホームページを作成し2年ほど運営した後は、あまり大きく「遊」に関することはなかったのですが、東日本大震災発生後の状況を見て、市民活動にソーシャルメディアやモバイル機器を有効に活用する必要を感じ、さまざまな実践的講座を開きました。

設立35周年を迎える「遊」のこれから――個々の思いを率直に語り合おう 倭屋年彦

倭屋年彦

倭屋年彦（たわらやとしひこ）
FM三角山放送局パーソナリティ、さっぽろ自由学校「遊」共同代表

特集

「遊」の明るい未来を信じて！

雨宮 恵子

2024年6月

ゆうひろば 第191号

ゆうひろば 第191号

2024年6月

会員総会の準備で一杯一杯になっているところに俵屋さんから「雨宮さん、今度のゆうひろばの原稿を書いてくれないかな?...」と言われ、うかつにも勢いで引き受けてしまった。しかし、総会が議論百出で大荒れに荒れやつと終ったと思ったら、休む間もなく1回目の理事会の準備に追われる毎日。やらなければならぬことが山の様にあり、「ええっ！ ゆうひろばの原稿2600字!! そんなだらだらと何を書くんだ。就任のあいさつと所信表明ならその半分で十分と意義を申し立てたが、却下！ すでに編集会議で割付が決まっているよう。止む無し！ もう腹をくくつて書くしかない！」

自口紹介
雨宮恵子と書いて「あまみやきょう」と読みます。よく「あめみや」と読む人がいるがちがいます。
生まれは勇払郡早来町（現安平町）字富岡。僻地で、小学校では3年生まで複式学級でした。（児童の人数が少ないので1年生と2年

生で1学級という体制）だから、3年生で割り算を習等変則的なカリキュラムで授業を受けました。でも自然の中で、午前中いつぱい作業や散歩をしたり、保育園みたいな自由な小学校生活を送りました。

5・6年の時の担任の先生は20代後半の苦労人（絵の道を志して代用教員をしながら作品を描いていた）で、戦後民主主義の影響を色濃く受けっていました。授業中に安保条約の話をしたり、無着成恭のやまびこ学級の影響か「学級憲法」というものを作り教室の一一番前に掲示していました。第1条が「いつでも助け合っていこう」、最後が「いつでも書き合っていこう」でした。

中学時代は大学闘争や高校闘争が日本中を席巻していました。中3の1月、安田講堂に立てこもった学生を機動隊が排除するのをテレビで見ました。その後高校に入学してから、卒業式で授与された卒業証書をその場で破るということが珍しくなかったことを知りました。今年度の前期の講座「憲法を武器として」の飯塚秀孝さんは高校の先輩です。彼の後輩

生活クラブは、
ちょっと変わった
生協です♪
モットーは
「おいしくてカラダによくて
自然を壊さない」です

生活クラブ北海道

検索

憲法私たちの生活に！ 厚別9条の会

会員は厚別を中心に、沖縄のアメリカ兵まで約100名

共同代表 渡辺 信一
TEL.090-6218-8284 FAX.011-897-8390
E-mail : mbwatanabe@yahoo.co.jp

雨宮恵子（あまみやきょう）
共同代表。食べるのこと、歌うこと、泳ぐこと、創ることが好き。

「遊」の未来は明るい！?
6月13日第一回理事会が行われました。若い世代の提案で会議の進め方のルールも整いました。そんな理事会のいい雰囲気が会員の皆さんにも伝わり、遊全体がどんどんいい方向に変わって行けたらと思います。

関心度も高くなっています。最近PARCで行っていた地方自治法の改悪の問題も「遊」で取り組んでいるマイナンバー制度の問題と関わるし取り上げて行けたらと思います。このように講座についての考えを出し合ひ、話し合っていける場をもっと作っていきたいです。また、自分の主催講座や、参加した講座だけではなく他の講座についても知りたいし、講座間の関係がもっと見えてくるようなしくみができたらと思っています。今の遊は連続講座が終わるか終わらないうちに次の講座のことを考えなければならず、追われるよう過ぎて行っています。一つ一つの講座についてしっかりと振り返りをしてそれを踏まえて次の講座作りをする「そんな『遊』」にしていきます。

大好きな「遊」へこんな風に変わって欲しい毎日、新聞を読んだり、ラジオやテレビを見たり、映画をみたり、人と話したりしながら、「遊」でこんな講座をやつたらいいんじやないかなとひらめくことがあります。社会のいろんな問題を共に考えて行ける場である「遊」というスペースが私は好きです。私がこれから「遊」に望むことは、もつと今の社会を切り取りその先が見えていくような講座がたくさん欲しいということです。例えば農業と食の問題はずつと気になっています。また、今NHKの朝ドラで憲法とフェミニズムの問題が注目されているので、「遊」でも何かできないかなどと考えた時「夫婦別姓の問題」が頭に浮かびました。裁判も始まり、



でやはり映画を作っている沢則夫さんは私が入学した時の生徒会長でした。最初のアッセンブリーの時に彼が書いた前年度の卒業式の答辞を読んでくれました。（当時アッセンブリーという集会の時間ががあり生徒会が自由に運営していた）制服の問題、それが学校間の序列や差別につながっていること、定時制と全日制の差別や交流のなさ等をはつきり言い切っていて衝撃を受けました。このことに大きな影響を受け、社会の動きをしつかり見抜こうとする姿勢を持たなければダメだと思ったようになりました。

「遊」とのかかわり
私が大学に入学した頃は学生運動は下火でウーマンリブの運動がさかんになっていました。デモや集会が頻繁に行われていて私も共同生活や共同保育をしているところに遊びに行ったり、リブキャラバンについて行ったりしました。その頃知り合った人たちの何人かが後に遊の結成に関わるようになるのだと思いますが、私は78年に大学を卒業し地方に就職したので、札幌から離れます。だから遊の結成や初期の活動には関わっていません。その後の記憶があいまいですが、転勤で札幌近郊に戻り遊に顔を出した時、若い世代

「遊」の運営と事務局

小泉 雅弘

1990年の設立以来、私はずっと事務局入スタッフとして「遊」に関わってきた。今回、「遊」の運営の方について特集するにあたり、その立場からこれまでを振り返つてみたい。

1988～89年にかけて、PARC（アジア太平洋資料センター）の呼びかけによるピープルズプラン（PP21）の大がかりな取り組みがあり、私もそこに首を突っ込んでいた。89年夏に北海道ではその一環として世界先住民族会議が開催されたが、一連の取り組みの終了後、札幌で自由学校をはじめようとした話を持ち上がる。塾講師でありながらPP21で飛び回っていた越田さん（故人）や私を文句も言わずに支えていたユウ教育セミナー（現・スクーレュウ）塾長の金興一さん（故人）がこの自由学校設立のプランに応じ、初年度は東区伏古にある塾を週一回使って自由学校「遊」がスタートした。初年度の事務局長は、金興一さんとPP21でも中心的に関わっていた大嶋薰さん。私は会計だったが、塾の私の机の上に自由学校専用の電話が置かれ、事実上「遊」の事務局となつた。

一年目からは、講座会場は塾を離れ、市内の公共施設などを使うようになつたが、94年度までは塾が「遊」の連絡先となつており、私が事務局的な役割を担つていた。しかし、初期の参加者の中から運営

に関わってくれる人たちが現れ、講座の担当もテー

マによって分担するような体制になつていった。

95年には、「女のスペース・おん」の事務所に間借りするような形で、事務所（というか電話）を喫茶ドミニネ2階のアパートに移す。「おん」のスタッフにも負担をかける形ではあつたが、この頃から初年度受講生だつた都築さんが事務局としての関わりを深める。97年には「おん」の事務所移転に合わせて西20丁目にある心広北1条ビルに移転、99年からは単独で部屋を借りることとなり、寄付金を募つて恒常的に講座ができるスペースと、有給の専従スタッフ2名を抱える体制への転換を図つた。

けれども、出資金のような形で集めた寄付金は2年間で目減りし、事務所を縮小し以前のように公共施設を使う形に戻す案が浮上する。しかし、縁あって街の中心部にある現在の愛生館ビルを借りられることとなり、2001年度よりここを拠点としている。都築さんは2008年度まで私と共に事務局を担つた。端から見ると喧嘩ばかりしている事務局に見えたと思うが（まあ、実際そうだったが）、この頃に今につながる「遊」の基盤ができたことは間違いない。

その後は、滝口さんが事務局に加わり、新たな人事事務局体制が2015年度まで継続した。二人と

も子どもがまだ小さかった時期で、結構大変だった。滝口さんの退職後は、新たなスタッフを雇い入れる財政的な余裕がなかつたことから振り出しに戻つた

ような感じで、私の一人事務局体制が続いた。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

そうこうしてじるうちに、2020年度にはロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄ではいかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

ロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠

方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年

度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を

中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄では

いかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、

どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安

定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

ロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ

禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠

方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年

度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を

中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄では

いかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、

どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安

定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

ロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ

禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠

方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年

度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を

中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄では

いかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

「遊」事務局に1年いて思うこと

八木 亜紀子

昨年6月より「遊」に出向して1年が経ちました。「遊」が参加する「森川海のアイヌ先住権を見える化するプロジェクト（以下、プロジェクト）」に週3日、「遊」の業務に週1日、出向元の開発教育協会（DEAR）の業務にテレワークで週1日の割合で従事しています。

プロジェクトでは主にアイヌの古老の方々への「聞き取り」を複数メンバーからなるチームで担当しています。聞き取りの調整、実施、記録のまとめと公開のための準備、再聞き取り、ご本人（またはご家族）による確認と同意、チーム内の読み合わせ会をはじめとする会議の運営など、数多くの業務があります。

70～90代の古老の方とのやりとりは対面と電話、お手紙が基本です。時間も手間もかかりますが、複数回お会いする過程を通して関係が築かれ、また、まとめを読んでご本人やご家族が喜ばれたり、涙を流したりする姿を目にすることもあり、責任とやりがいを感じています。一方で、昨年から今年にかけて、聞き取りをさせていただいた3名の方がお亡

くなりになつたことは衝撃でした。ご本人にきちんと成果をお戻し、「話してよかつた」と思つていただけるよう、迅速に作業を進めなければなりません。この7月を日程にウェブサイト上で公開できるよう準備をしているところです。

「遊」の業務の範囲では、これまでに講座の企画・運営、インターん対応、各種会議や事務などに従事しています。昨年は2002年度から20年以上にわたりXOOPS（ズーム）で運営されてきたウェブサイトをワードプレスを用いてリニューアルしました。更新が簡易にできるよう、非常にシンプルに構成しました。

作業にあたつては「リニューアルする」ことが目的化しており、「なんのために」という目的や「なにを・どんな対象者に発信したいのか」といった方向性、さらには、詳細な予算額についても情報提供が無く、また、相談しても回答がなかつたり、意思決定があいまいであつたりすることに困惑しました。結果、

過去の自由学校講座のアーカイブズ以外は旧サイトの「コンテンツを引っ越すだけの形になりましたが、今後は目的や方向性も議論しながらウェブの活用方法を検討していく仕組みが必要だと思います。

なお、これら的情報共有や議論の不十分さ、意思決定プロセスの不明瞭さ等は、遊の業務全般を通してみられることがあります。いわゆる「表紙問題」で明らかになつたように、ジェンダー問題への認識をはじめとする価値観や手法の古さも否めません。2か月間に渡り複数の講座に参加したインターナンの学生たちも「ユースや新しい人が参加しやすいようにするために、参加者が自分の意見や気持ちを安心して表現できる状態にする必要があります」と提案をまとめました。

今年度から新理事らも交えて組織運営の直しが進められる予定だそうです。長年の文化や習慣をえていくのはたやすいことではありませんが、先日オブザーバー参加した理事会では数々のチャレンジのアイデアが出されました。あと1年、どうぞよろしくお願いします。

八木 亜紀子（やぎ あきこ）

さっぽろ自由学校「遊」事務局

2024年6月

ゆうひろば 第191号

ゆうひろば 第191号

も子どもがまだ小さかった時期で、結構大変だった。滝口さんの退職後は、新たなスタッフを雇い入れる財政的な余裕がなかつたことから振り出しに戻つた

ような感じで、私の一人事務局体制が続いた。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、

どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安

定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

ロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ

禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠

方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年

度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を

中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄では

いかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、

どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安

定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

ロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ

禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠

方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年

度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を

中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄では

いかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、

どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安

定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

ロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ

禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠

方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年

度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を

中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄では

いかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、

どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安

定」的な状況にはなつたものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちになつてしまつたことは否めない。

ロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなつた。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切つたため、ロナ

禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠

方の参加者を得るよい機会となつた。以降、オンライン対応を手放すことができなくなつたのだが、事務局としては資料やSIRIの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年

度からは、海外のファンドを得ての大がかりなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなつてきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を

中心に出向く形で八木さんに事務局に加わつてもらつた。そのこともひとつきっかけとなつて、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄では

いかない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えていく。

特集

特集

◆稻場 千夏さん

ゆうひろばをご覧のみなさん、はじめまして。今期より「遊」の理事となつた稻場千夏（いなばちなつ）です。職場では平社員を貫いている身ですが、いきなり理事というのはなんともむず痒く、思わず責任感のようなものを感じてしまいます。

わたしは日々、社会に対し湧き上がる興味関心や疑問、怒りを抱きました。気が向いたらモヤスタンディングに行つたりしますが、気分的にはイマイチで、その理由を考えました。で、気付きました。「この気持ちを自分の言葉と行動で、もっと自由に社会へ表現してみたい!」そこで、遊の存在を思い出したのです。学べる場は山ほどありますが、自由に講座を作つて仲間同士で学び合い、運動に繋げていける場はなかなかありません。そのことに気が付くまで、ずいぶんと時間がかかってしまいました。ずっと遊を続けてくれて、ありがとうございます。

わたしのように、社会への関心から一步先へ踏み出してみたい人たちと遊び合ふ、新しい遊を作つていきたいです。

*以下おまけ

6月に支給される給与から、追加徴収77000円が天引きされることになりました。一体、どうじつ仕組みでこうなったのかははつきりと分かりませんが、とにかく引かれるの嫌だ――。



◆下郷 沙季さん

先月、自宅で洗濯物を干しているとき、踏み台からつかり落ちて尻餅をつきました。ハツとして左の前腕を見ると、なんとS字になつてます…。粉碎骨折でした。入院・手術を経て最近ようやくパソコンで文字が打てるようになり、こうして原稿を書いています。

腕一本動かせないことがこんなに大変だとは。友人が髪を洗ってくれる。同僚がカツプ麺にお湯を入れてくれる。上司が傘を開いてくれる。カフェの店員がドアを開けてくれる。こうしたフォローに毎日驚きます。

でも考えてみると、苦手なことはもともとありました。整理整頓、忘れ物しない、力仕事、スケジュール管理…。いろんな人にフォローしてもらい、私も他の人をフォローしながら生活しています。以前、苦手な食器洗いをしていたら、一緒に住んでいた友人に言われました。「どうしてやりたくないことやるの? 僕は食器洗いが好きだからいつもやってる。やりたい人がやればいい」。うん、たしかに…。みんなやりたくないから困るけど(笑)。

理事の仕事はやりたしからやってみます。他の理事もそうかな。でも何かを一生懸命やってると、やりたくないこともあります。それでも無理してやつてしまふことがあります。せっかく15人もいるのだから、それぞれがやりたいことや得意なことを気持ちよくやってフォローしあえるよう工夫したいです。



新任理事

◆田村リエ子さん

私が「遊」を知ったのは、2021年の「核ゴミ」講座の記事でした。この記事を見つけたとき、「何が何でも参加したい!」と思つたのです。

それまでは、TVや新聞、著書から情報を知るのみで、本当に知りたいことを知ることに壁を感じていました。ところが「遊」のパンフレットには、核ゴミ以外にも知りたかったことが並んでいたのです。そして参加者と話をするうちに、さらに知りたいことが増え、講座を企画することとなりました。その作業は私にとってとても大変で、地獄といつてもよい程苦手なことばかりでした。が、また次の企画時期になると、知りたいことが出てきて地獄のループを繰り返し、今に至っています(今回の講座は半導体です)。

「遊」に関わったことで気づいたことは、普段の生活で社会問題や政治的なことを話さないことに慣れていたこと。社会の規制が強くなり、声を上げることが難しくなつていてました。今は気づけたことで、「遊」以外の活動にも参加しています。

多様性を尊重する「遊」に出合えたことに感謝し、まだ「遊」を知らない方やハードルが高いと感じている方に、ぜひ参加してもらいたい! ハードルは田村がさげてます(笑)。

「遊」は、みなさんに開かれたりたいと想っています。よろしくお願いします!



新理事に就任いたしました平野研です。
私と自由学校「遊」との主な関わりは、2008年洞爺湖サミットがきっかけでした。2000年代は環境破壊や貧困・格差など世界的諸問題の原因として、新自由主義などを疑問視する様々な市民運動が世界中で展開され、連携していました。洞爺湖サミットに対しても、提言を行うアドボカシー運動や対抗運動など多岐にわたる市民が集まり、議論し情報発信を行いました。その中心の一つが「遊」だったのです。多種多様な市民運動が連携し、総合的な運動としてできたのは、ハブとして「つなぐ場」であった「遊」であり、今は亡き越田さんを中心とした関係者の人と人とを「つなぐ力」であったからだと感じています。

残念ながら、現在の国際的市民運動の連携はある頃よりは薄くなっています。越田さんであれば「バカだなあ、俺がいなくなつたからだよ」くらいは言いそうですが、移民問題や戦争、極右台頭など「分断」の流れは新自由主義とは異なる新たな形となつています。しかし同時に少数民族やLGBT+の社会化のように新たな「包摶」の可能性も見えてきます。対抗軸はわかりにくくなつていてるからこそ、「つなぐ場」としての「遊」の役割はますます大きくなつてきています。

就任したばかりで、あまり具体的な話はできませんが、ともかく越田さんに皮肉の一つでも言えるように「つなぐ力」の一端になりたいと想っています。よろしくお願いします。



4学協会の研究倫理指針

脱植民地化に向けて 丸山博

稿

2024年6月

ゆうひろば 第191号

ね、上記の4学協会に公開質問状を送付するようお願いした。回答は8月末とし、年内には再度、公開対話集会を開催するということでも両者の間で大筋の合意が得られた。なお、以下に、公開質問状の本文を示す。

2024年4月13日、「アイヌネートン」(代表木村一三夫氏)が、日本人類学会・日本文化人類学会・日本考古学協会と北海道アイヌ協会の4学協会を招き、その「アイヌ研究に関する倫理指針」について公開対話集会を開催した。日本人類学会は1名だったものの他の団体からは其々2名の代表者が出席し、他の団体からは其々2名の代表者が出席し、会場にはアイヌや琉球の活動家を含む総勢90名が集まつた。琉球民族の渡名喜隆子氏の司会の下、木村一三夫氏の開会の挨拶に続き、2人の研究者が対話を資するべく、それぞれの見解を述べた。まず、北海道大学教授の加藤博文氏が倫理指針の要点を説明し、私が倫理指針の主要な問題点を指摘した。

続く対話集会の第一部すなわちアイヌ・琉球民族と4学協会との対話及びその後的一般市民を含めた対話集会(小泉雅弘氏司会)を通して、当事者は各学術団体の代表者に植民地主義的研究への不誠実な対応を訴えた。すなわち、東京新聞(https://www.tokyo-np.co.jp/article/322683?rct=kihara_1)や北海道新聞が報じたように、「現在の植民地主義的な研究倫理指針に基づく研究を始める前に、遺骨の盗掘や言語・文化の搾取など研究の名下にアイヌ民族に対して行われた歴史的不正義を認め、それに対処することが先決である」という主張がなされたのである。さらに、アイヌの活動家たちは、「北海道アイヌ協会だけでなく、他のアイヌの団体も研究倫理指針の策定に加える」よう要求した。4学協会が先住民族の権利に関する国連宣言を尊重するというのであれば、これらの主張や要求は無条件で受け入れられなければならない。

6月7日、木村一三夫氏と本田和義氏、私は、加藤博文氏を北大に訪



2024年4月13日「人が人であるための学問を問う会」
(於:札幌エルプラザ・環境研修室)

◆◆◆

4月13日、貴学協会の「アイヌ民族に関する研究倫理指針」を巡り、日本のセトロー・アリズム(入植者植民地主義)の下で土地や名前、言語、文化を奪われたアイヌ・琉球民族と貴学協会との話し合いが公開で行われた。東京新聞と北海道新聞がそれぞれ一面で報じたように、メディアの関心は高く、研究倫理指針に批判的な論調であった。それは参加したアイヌ・琉球民族の声の反映であり、市民社会の受け止めもある。

私たち、その後、録音された全ての意見を吟味し、次のような質問にまとめた。貴学協会が上記の研究倫理指針

2024年6月

ゆうひろば 第191号

でアイヌの同意を基本原則として位置づける以上、誠意をもつて答えてほしい。回答期限は8月末日とする。なお、私たちの質問書は、1980年に北大の研究者によって盗掘されたアイヌ遺骨の返還運動を始めた海馬澤博士さん、その後、北大を相手にアイヌ遺骨の返還を求めて裁判を起こした小川隆吉さん、城野口ユリさんら私たちアイヌの先達や、京大を相手に琉球民族遺骨返還訴訟に中心的に関わった琉球民族の玉城毅(たまごしきつよし)さん、亀谷正子さん、松島泰勝さんらの意思を継いだものであることを付記する。

特権ではなく、市民社会の上に成り立ち、社会規範に従うものである。私たちは「盗ったものは還せ」というアイヌ・琉球民族の声に応えることが研究倫理の出発点だと思うが、貴学協会においてはどのように考えるか。

1. アイヌに関する新たな研究を進める前に、貴学協会のうち北海道アイヌ協会をのぞく3学協会は学問による過去の不正義について向き合い、謝罪すべきである。人類学の学問的業績が、墓からの盗掘という犯罪的行為の上に成り立つものである限り、アイヌのみならず、市民社会においても断罪される。それはセトロー・アリズムがポストコロニアルやディコロニアアルという新たな概念によって後年批判されたことと同じである。それが「歴史によつて裁かれる」ということであり、そして人類は過去のできごとにメスを入れ、よりよい未来を築いてきた。学問は

3. 遺骨問題の解決なしは解決の目処がない。そのため、「人が人であるための学問を問う会」(代表木村一三夫氏)が、日本人類学会・日本

研究倫理指針の原則の議論が進められるべきだ。その際、アイヌ・琉球民族のデータ主権を踏まえた「自由で事前の十分な情報に基づく同意」(FPIC)が最大限尊重されなければならず、それを保障するためには、研究倫理審査委員会において最低限アイヌ・琉球民族が委員の過半数を占めなければならない。決定は委員全員一致を原則とする。また、先住民族に関する国連宣言第11条、12条は、近代以前のアイヌ遺骨のみならず、埋蔵文化財調査の手続きを経て発掘されたアイヌの遺骨や副葬品にも適用される。私たちは新たな研究倫理指針についてはこのように考え

るが、貴学協会の意見を伺いたい。

1. アイヌに関する新たな研究を進める前に、貴学協会のうち北海道アイヌ協会をのぞく3学協会は学問による過去の不正義について向き合い、謝罪すべきである。人類学の学問的業績が、墓からの盗掘という犯罪的行為の上に成り立つものである限り、アイヌのみならず、市民社会においても断罪される。それはセトロー・アリズムがポストコロニアルやディコロニアアルという新たな概念によって後年批判されたことと同じである。それが「歴史によつて裁かれる」ということであり、そして人類は過去のできごとにメスを入れ、よりよい未来を築いてきた。学問は

3. 遺骨問題の解決なしは解決の目処がない。そのため、「人が人であるための学問を問う会」(代表木村一三夫氏)が、日本人類学会・日本

内科・神経内科
札幌中央
ファミリークリニック
外来一般診療
月火木金9:00~11:30
札幌市中央区南1条西11丁目
ワンズ南一条ビル6F
TEL. 272-3455

丸山博(まるやまひろし)
室蘭工業大学を定年退職後、北欧の研究者やアーティストらとともに国際研究センターCEMiPoS (<https://cemipos.org/>) を立ち上げ、脱植民地化をめざした国際会議の開催や学術書の出版などを行っている。

ハンセン病問題の現在地

講座報告

七尾寿子

指紋押す指の無ければ外国人登録証に
わが指紋なし
いつきに語り涙ぐみたり

■ハンセン病市民学会全国交流集会in北海道

5月11、12日と札幌で開催されたハンセン病市民学会は、国が「らい予防法」を違憲と認めた2001年から4年後、2005年に立ち上げられた。「まだまだ道半ばのハンセン病問題の全面解決を目指して、市民が交流、提言、検証を柱に集う場」として、年に一度、各地で開催され18回を迎えた。

私は初めて参加したが、かでる2・7のホールもロビーの展示も、全国から多くの参加者が集つて熱氣があった。だが、一切の撮影が禁止され、札幌の弁護士があちこちに立っているという、なぜか緊張した雰囲気を怪訝に感じた。そのわけは、全体会の中でわかつた。

前年、開催地のテレビ局のニュースに撮影お断りだったはずのハンセン病家族訴訟の関係者が映っていたと、厳しく抗議されたという。ハンセン病差別にさらされてきた家族の苦しみが、ステージの衝立の後ろから匿名で語られた。ハンセン病患者として強制隔離され、回復しても社会復帰の叶わなかつた人生を送つた回復者の苛酷さももちろんだが、その家族、親戚も、

いじめ、破談、離婚、就職差別、地域からの排斥:未だにその差別への恐怖があると訴える。

匿名は、差別からの防御だ、しかし、匿名はまた、孤立と沈黙の甘受に陥らないか、思考は渦巻いてまとまりない。

■連続講座「ハンセン病問題の現在地」

札幌でのハンセン病市民学会開催を受け、「遊」で、連続講座「ハンセン病問題の現在地」がスタートした。

第1回、6月2日は、東京東村山市の多磨全生園にある国立ハンセン病資料館学芸員の金貴粉（キンキブン）さんに「在日朝鮮人とハンセン病」と題して語つていただいた。在日朝鮮人の発病率が高かつたのはこの病気が栄養や衛生地支配下で生活水準を低く押し下げられていたためだつたこと。日本のハンセン病政策の差別の下で生きざるを得なかつたこと。年金獲得闘争の行動を起こしたこと。朝鮮語や朝鮮語点字を覚えていたのは、自分が何者であるかという人間回復であつたこと。

金夏日（キムハイル）さんの短歌を紹介する。



講演をする金貴粉さん
(2024年6月2日、かでる2・7にて)

第2回、7月23日 無らの県運動とは何か—戦時下のハンセン病療養所の実態／草津栗生（くりう）楽泉園の重監房資料館部長、黒尾和久さん

問題と家族訴訟／ハンセン病家族訴訟北海道弁護団事務局長の原琢磨弁護士
第3回、8月27日、北海道におけるハンセン病問題と家族訴訟／ハンセン病家族訴訟北海道弁護団事務局長の原琢磨弁護士

■ハンセン病胎児標本問題と優生保護法

7月13日には、シンガーソングライター沢知恵さんの「ハンセン病を生きた人のうた」ピアノ弾き語りコンサートを開催する。15時開演、会場はテレビ塔下の北光教会の4階チャペル。前売2千5百円、当田3千円、25歳以下2千円。連絡先080-1898-7037（七尾）
沢さんは、パワフルに歌い上げるかと思えば、囁くように歌う。なんとも魅力的な曲作りと歌声。自作やカバーで、29枚のアルバムを出している。

■沢知恵「ハンセン病を生きた人のうた」

コンサート

第4回、9月24日 ハンセン病と複合的な差別—旧優生保護法の違憲性と連なるもの／秀嶋ゆかり弁護士、ハンセン病市民学会全国交流集会in北海道実行委員会委員長

■沢知恵「ハンセン病を生きた人のうた」

コンサート

7月13日には、シンガーソングライター沢知恵さんの「ハンセン病を生きた人のうた」ピアノ弾き語りコンサートを開催する。15時開演、会場はテレビ塔下の北光教会の4階チャペル。前売2千5百円、当田3千円、25歳以下2千円。連絡先080-1898-7037（七尾）
沢さんは、パワフルに歌い上げるかと思えば、囁くように歌う。なんとも魅力的な曲作りと歌声。自作やカバーで、29枚のアルバムを出している。

その沢さん、赤ちゃんのときに牧師のお父さんには抱かれてハンセン病療養所に行つた。大人になってまた訪れると「あのともえちゃんがこんなに大きくなつて」と喜んでくれた。療養所では、赤ちゃんを見ることが抱くこともなかつたからだ。2001年から毎年、大島青松園でコンサートを開き、2014年にはとうとう、岡山に移つて長嶋愛生園にも通つている。コンサート、ラジオ、テレビ出演、「スペルも主宰し、さつに各園の音楽文化や園歌に出会つて、大学

■ハンセン病胎児標本問題と優生保護法

2007年、厚労省は、各療養所に113体残されたホルマリン漬けの胎児標本の処分に困つて一括して焼却し、お地蔵さんを作るとして問題になつた。実は3000体を超していたというハンセン病胎児標本問題である。厚労省との面談に出向いた胎児の母である女性たちに付き添つて私も座つていた。

ある女性が声を上げた。「なぜ、私の赤ちゃんは殺されなければならなかつたのですか?」女性は、身ごもつた体で発病し、幼い息子を置いて入所させられ、ほどなく出産した。産声を聞いたがそのまま隣室に連れて行かれてそれっきり産声は途絶えた。後で「女の子だったよ」と聞いた。後年、ホルマリン漬けの赤ちゃんのガラス容器に自分の名が貼つてあると知つた。「職員の方たちに恨みはない。それが仕事だったのだから」女性の右隣に付き添つてきた息子さんが座り、左隣が私だつた。それは1953年のこ

私が、娘さんの代わりにここにいる気がした。強制不妊手術、墮胎、早産、嬰兒殺し、らい結局、一体ずつ荼毘に付し、慰靈祭の後、納骨堂に納められたのだった。

2018年、全国で提起された優生保護法強制不妊手術違憲訴訟に、ハンセン病回復者の方の参加はない。私は、2001年のらい予防法違憲判決の謝罪、賠償が優生保護法により、自分の自己決定権を奪われたことも、孕んだ命を殺されたことも、包括されているとは、どうしても納得できない。

7月3日、その優生保護法強制不妊手術違憲訴訟の最高裁判決が出る。

感染症の恐怖、罹患者への偏見、差別は、諸相に広がり、深まつてゐる。そこで生きる／生きた人々の歴史は、今の私たちを照射している。

七尾寿子（ななおひさこ）

さつぽう自由学校「遊」会員

筑豊から山谷へ、そして福島原発へと続く棄民の歴史

小笠原純一

山岡さんは筑豊口ヶ日記で「石炭産業は日本資本主義創成の要であり、そこで囚人労働から納屋・飯場制度と確立されていく労務者支配は、強制連行において極まるが、この支配は土木・建設へと一般化されて今日の寄せ場の暴力支配の原点となっている。この支配こそ棄民政策を可能ならしめる大きな要因である」と述べている。佐藤監督が虐殺された後、彼の意志を受け継ぎ山谷の映画を完成させた際には、山谷の成立する歴史的根拠、すなわち棄民の歴史を筑豊の現在の姿に見る事でもう一度、山谷を捉え返す作業が必要だと考えたわけです。

実際、山岡さんの日論見通り筑豊での口ケは刺激に満ちたものでした。朽ちて崩れ落ちそうな巨大なコンクリートの塊が次第に草木に覆われていく様や人の當みの跡がまだ感じられる炭住の廃屋、そしてその高さの分だけ人が死んだと言われる巨大なボタ山、数多くの炭鉱遺産と言われる遺物が残されていますが、そこに犠牲になつた労働者の痕跡を示すものは見えなくなっています。しかし廃墟となつた風景の目に見えない裏側には語る

事を封じられた労働者達の悲しい物語りがあるのです。映画の筑豊のシーンでボタ山が出てくるのは豊州炭鉱ですが、1960年に起きた事故では67名が坑内に密閉し閉山、いまだにその亡骸は地下深く埋められたままなのです。また地元の学校の先生の案内で訪れた強制連行された朝鮮人の無銘の墓は、今でも日本人やペットの墓に駆逐されようとしており、一握りのボタ石だけが、そこに人が埋められているという痕跡をかろうじて残しています。死んでもなお、差別され顧みられる事なく消されようとしている墓の地中からは死者達の恨(ハン)の慟哭が聞こえてきそうです。閉山後の筑豊では、残された者への根深い差別と棄民の現実が重くのしかかっていて、企業の撤退で仕事がなく、多くの住民が生活保護に頼らざるを得ない暮らしをよぎなくされました。そして現在の山谷も労働市場としては、ほぼ壊滅し労働者の多くが生活保護を受けて暮らす町に変わりました。くしくも筑豊と同じ運命を辿つているのです。そして現在エネルギー政策の転換によって閉山後の炭鉱から寄せ場に流れた労働者は、再び国策に

よつて寄せ場と同じ重層的下請構造の企業の使い捨て労働力として原発に動員されています。ゲストトークのなすびさんの次の指摘は慄然としました。被ばく労働においては0%の労働者がガンで死ぬ事を容認しているという事です。福島第一原発では四千人位が働いています。毎年四人がガン死する数値です。これは究極の棄民労働ではないでしょうか。労働者の命の犠牲の上に成り立つ原発はやめるべきです。現在、東電を相手に白血病の労災認定の裁判を闘うあらかぶさんといつぱん労働者がいます。東電は、下請けの労災にはコメントする立場にないと責任を認めていません。あらかぶ裁判に注目し支援をお願いします。

小笠原純一（おがさわらじゅんいち）
山谷制作上映委員会。映画「山谷やられたらやり返せ」では助監督のような役割でした。映画には神田十吾の名で参加。

リレーエッセイ 私と、さっぽろ自由学校「遊」 第10回

中島圭子

さっぽろ自由学校「遊」（以下、「遊」）が設立されたのは、1990年。私は、1990年から3年間札幌に住んでいましたが、その3年間「遊」の事は全く知りませんでした。

2006年8月にまた札幌に来て、先ず最初に訪れたのは「遊」の事務所でした。とうのも、その前に住んでいた大阪で、恵庭O・J殺人事件のことを聞いていたり、2004年の「水俣・札幌展」のお手伝いに来ていて、「遊」ってどんな所だろう？何か情報が得られるかもしれない、とにかく「遊」に行つてみようと思つたからです。多分、「遊」の企画で最初に参加したのは、西山正啓監督の岩国映画上映会だつたと思います。「遊」でもらつた「夜間中学をつくる会」のチラシを見て、翌年には札幌遠友塾自主夜間中学のボランティアスタッフになつてしましました。（私は、「遊」と「遠友塾」は、花崎皋平さんの双子の息子だと思っています。）

札幌に来て、右も左もわからない私にとって、「遊」との関わりが大きな糧となつてきました。今思いつくことをいくつか列記してみます。

さっぽろ自由学校「遊」（以下、「遊」）が設立されたのは、1990年。私は、1990年から3年間札幌に住んでいましたが、その3年間「遊」の事は全く知りませんでした。

2006年8月にまた札幌に来て、先ず最初に訪れたのは「遊」の事務所でした。とうのも、その前に住んでいた大阪で、恵庭O・J殺人事件のことを聞いていたり、2004年の「水俣・札幌展」のお手伝いに来ていて、「遊」ってどんな所だろう？何か情報が得られるかもしれない、とにかく「遊」に行つてみようと思つたからです。多分、「遊」の企画で最初に参加したのは、西山正啓監督の岩国映画上映会だつたと思います。「遊」でもらつた「夜間中学をつくる会」のチラシを見て、翌年には札幌遠友塾自主夜間中学のボランティアスタッフになつてしましました。（私は、「遊」と「遠友塾」は、花崎皋平さんの双子の息子だと思っています。）

札幌に来て、右も左もわからない私にとって、「遊」との関わりが大きな糧となつてきました。今思いつくことをいくつか列記してみます。

さっぽろ自由学校「遊」（以下、「遊」）

が設立されたのは、1990年。私は、1990年から3年間札幌に住んでいましたが、その3年間「遊」の事は全く知りませんでした。

2006年8月にまた札幌に来て、先ず最初に訪れたのは「遊」の事務所でした。とうのも、その前に住んでいた大阪で、恵庭O・J殺人事件のことを聞いていたり、2004年の「水俣・札幌展」のお手伝いに来ていて、「遊」ってどんな所だろう？何か情報が得られるかもしれない、とにかく「遊」に行つてみようと思つたからです。多分、「遊」の企

本来社会学はそんな言い方ができないはずだ。というのも、社会といふものは「意味」で構成されていて、その意味は複雑に錯綜している。社会科学者は、何らかのテーマをめぐつて繰り広げられる多様で複雑な「意味」を「聞く」ことによつて集め、そこから何かを発見しようとする。社会学者はその複雑な意味の世界の外にいるわけではないので、「聞く」

フィールドワークな日々

はつきりした「答」がない、意味が錯綜している社会で、しかし、自分たちで問題を提起し、解決する。それは至難の業だ。しかしそれが民主主義だ。そのときに、対話からみ

*二〇〇五年から二〇年間にわたり書かせていただいたこの「フィールドワークな日々」、今回でいっただん終了です。長くご愛読いただき、誠にありがとうございました。

が断定的に言つたとしたら、それはまさに「欠如モデル」だ（市民運動も同様の「欠如モデル」に陥りやすい、と反省を込めて言つておきましょう）。

第九七回（最終回）使える社会学

第九回(最終回) 俗不可耐社会学
環境問題や科学技術の問題について「科学者は正しい解決策を示しているのに、人びとの科学的知識が欠如しているので、受け入れてもうえない」という傲慢な見方を指して、「欠如モ^{デル}」と言う。「欠如モ^{デル}」は通常自然科学の専門家に向けられる批判だが、社会学

「どうのはつまり、「対話」でしかありえない。地道な対話でさまざま「意味」を集める。そしてそこから、何らかの発見をし、暫定的な、あくまで暫定的な提言をする。それが社会学の流儀だ。」

ソロモン諸島で調査をしていた最初のころ(つまり三〇年くらい前だ)、土地所有をめぐつ

んなで規範を作りあける社会学の技法は「使える」、と思う。その「使える」社会学について、「社会学をはじめる 複雑さを生きる技法」という本を書いた。

実のところ、社会学という学問そのものについて語りたくてこの本を書いたわけではない。不確実性と多義性を強く帯びるこの世界の中で、きちんと地に足をつけ、みんなで一つ一つ規範を作りあげていく民主主義の技法としての社会学を語りたかった。ご一読いただければ幸いです。

ゆうひろば 第191号

二〇一四年三月一杯で会社をクビになり失業保険を貰い始めました。失業保険つてものをちゃんと貰うのって初めてかも？何せ元々の給料が一〇万そこそこだから失業保険で貰える金額だとすぐに生活に困るから仕事を辞めても“はい！すぐ次の仕事！”って働き詰めだったので今回はゆっくり貰ってみようかと…まあ手取り一二万で失業保険が一一万貰えるとわかつたから、の話なんですが。丁度旦那が入院中で週一で差し入れを持つて行ったり介護認定の申請したり病院の医師やケアマネさんと話したり私の保険の切り替えた年金だ二〇〇Mで講義だ日本文化人類学会だなんだかんだで忙しくて「仕事辞めたら部屋掃除する！」って息巻いていたのに玄関と風呂とトイレの大掃除したつきり部屋には取りかかれていない…てゆーか家のことは旦那に任せっきりだったので、まずゴミ

クタになるまで煮ですり鉢であたつてこして
茹で汁に戻して温めて塩で味を調えたり、牛
乳と塩コショウしてポタージュになると野菜
の甘さで旨い。天麩羅やとんかつは私の技術
では無理なので専門店に食べに行くけど、家
でのごはんが旨いので、そんなに外食はして
いない。たまに外食してトンテキとかカレー
ドリアとかを家で再現すると店よりも旨かつ
たりして、しかも費用は五分の一だつたりし
て！ 何で今まで料理して来なかつたんだろ
う…と本氣で思つてゐる。

いつも「今現在の生活」が変わるのがイヤ
な私は、退院して旦那が家に戻つて来るとま
たハーレーシヨンを起こすんだらうけど、旦那
が帰つてきたら旨いもんを食わしてやりたい
とも思う。きっと煙草が吸いたいのとビール
が呑みたいのとで帰りたがつてゐるんだが、
好きだけ！ とはいかないので、ほどほど

原田公久枝（はらだきくえ）
三月一杯でクビになり失業保険を貰つていま
す。往復一二kmの病院への差し入れや往復八km
の北大もどこに行くのも自転車で爆走している



「どこかに美しい人と人の力はないか 同じ時代をともに生きる したしさとおかしさとそうして怒りが鋭い力となって たちあらわれる」

(北村公一)



さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

オンライン開催講座（2024年7～8月開講分）



オンライン
申込

Let's Talk! 世界と出会う英語 ★アンドレス・パトリシアン

7/8、7/22、8/5、8/19 月2回月曜 19:00～

〈東アジアの記憶の場〉を通して考える東アジア問題

② 7/9（火）18:45～ 東アジアの記憶の場としての戦後補償裁判 ★金誠

政治をもっとジェンダー平等に —議会を変え・社会を変える女性たち

④ 7/17（水）19:00～ なぜ政治の場に女性が必要か？ ★遠藤ミホ、山口かおる

⑤ 8/28（水）19:00～ 政治の場にもっと多様性を！ ★小林ゆうき

分断の壁を溶かす 時空間アートの実践 ★講師 VRアートを楽しむ会

8/30（金）19:00～

中国語で読み解く東アジア ★講師 朴仁哲

② 7/30（火）18:45～

※「著者と読む『アイヌもやもや』読書会」につきましては、定員に達したため、募集を締め切らせていただきました。ご了承ください。



編集便り



「ゆうひろば」6月号の特集は「遊のこれからを考える」として、新しい共同代表と理事・事務局のメンバーの文章を中心として考えました。それぞれの文章に過去と現在と未来に対する思い入れを感じます。

総会の議案書にも書きましたが、「ゆうひろば」の内容は、6人の編集委員（小泉、黒田、細谷、北村、俵屋、飯島）の合議で検討し、原稿依頼者を考え、分担してお願いにあがっています。

特集では、現在の日本や世界の社会的課題・問題を取り上げ、講座関連の事柄や寄稿、リレー・エッセイ、連載と続きます。「フィールドワークな日々」は、今回で最終となります。宮内さん、20年間お疲れさまでした！「対話からみんなで規範を作り上げる社会学の技法」は、今後遊においても必要なことですね。

限られた紙面ということもありますが、会員の交流誌として継続していきたいです。ご意見等が有りましたら事務局までよろしください。

6月には必ず思い出す詩があります。茨木のり子の「六月」です。（全文は無理なので）最後はこう結んでいます。

「どこかに美しい人と人の力はないか 同じ時代をともに生きる したしさとおかしさとそうして怒りが鋭い力となって たちあらわれる」



さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

会場&オンライン併用講座（2024年7～8月開講分）

（会場記載のないものは愛生館ビル5F 501会議室にて）

講座のお申込は、右のQRコード、または「遊」ウェブサイトよりお願いします。
<https://sapporoyu.org/>



会場（対面）
申込



オンライン
申込



アメリカの歴史から大統領選と日本を考える ★講師 北村公一

③ 7/2（火）18:45～ アメリカの歴史3 ④ 8/6（火）18:45～ アメリカの歴史4

カール・マルクス著『資本論』を読む ★チューター 宮田和保

③ 7/3（水）18:45～ ④ 8/7（水）18:45～

超入門！ ハングル ★李誠（Lee Sung）リ・ソン

7/10、7/24、8/7、8/21 月2回木曜 19:00～

漫画『ゴールデンカムイ』と出会い直す

③ 7/12（金）18:45～ 漫画はアイヌをどう描いてきたか？金力ム以前の「名作」たち ★長岡伸一
④ 8/9（金）18:45～ 北風磯吉・明治から昭和を生きたアイヌ ★鈴木邦輝

人と動物との共存・共生をめざして part 4

③ 7/13（土）13:30～ 「タンチョウ鶴居モデル」の構築をめざして ★音成邦仁
④ 8/10（土）18:45～ 動物法への第一歩 ★本庄萌

半導体産業の地政学的リスクと未来展望を考える

③ 7/16（火）18:45～ TSMCで熊本の地域はどう変わるの！？ ★嘉藤和治、岩田智子
④ 8/20（火）18:45～ ラピダスで千歳の地域はどう変わるの！？ ★相沢晶子

このままでいいの？ 再生可能エネルギーの進め方 part14

③ 7/18（木）18:45～ 住民無視で進められる木質バイオマス発電所の実態 ★花石恵子
④ 8/22（木）18:45～ 希少種調査と地域連携で再エネ乱開発立ち向かう ★小山正人

ハンセン病問題の現在地

② 7/23（火）18:45～ 無らい病運動とは何か ★黒尾和久 *於：札幌エルプラザ中研修室
④ 8/27（火）18:45～ 北海道におけるハンセン病問題と家族訴訟 ★原琢磨

先住民族の森川海に関する権利 4 —海とアイヌ民族

③ 7/26（金）18:45～ 白糠におけるアイヌ文化と海 ★磯部恵津子
④ 8/23（金）18:45～ 海で生きるアイヌ漁師集団 ★差間啓全ほか

札幌貧困状況地図

③ 7/27（土）14:00～ 若い世代の生きにくさに寄り添って ★屋代通子
④ 8/24（土）14:00～ 貧困者に寄り添い続けて一ベトサダの活動 ★菅原勇也

私たちは沖縄の現状にどう向き合うべきなのか

④ 7/29（月）18:45～ リバーラと違う立ち位置で考える基地引き取りとは ★中村之菊
⑤ 8/26（月）18:45～ 人とのつながりが私を基地引き取りに導いた ★日野晴美



さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

会場開催講座（2024年7～8月開講分）

(会場記載のないものは愛生館ビル5F 501会議室にて)



講座のお申込は、右のQRコード、

または「遊」ウェブサイトよりお願いします。

<https://sapporoyu.org/>



会場（対面）
申込

アイヌアートデザイン教室 ★講師 貝澤珠美

毎月第二・第四水曜 13:00～

花さんの詩の世界 於：花崎さん宅（小樽）

③7/11（木）14:00～ ④8/8（木）14:00～

老いと向き合う part11

③7/5（金）14:00～ フレイル予防について ★渡邊一栄

④8/2（金）14:00～ 「ぼけの壁」読書会と交流会 ★細谷洋子

「遊」版うたごえ喫茶 2024 於：愛生館サロン（愛生館ビル6F南側奥）

④7/19（金）14:00～ ⑤8/23（金）14:00～

読書室 よりみちまわりみち

④7/20（土）14:00～ ⑤8/17（土）14:00～

ハンセン病を生きた人のうた 沢知恵 ピアノ弾き語りコンサート

7月13日（土）15時開演 14:30 開場

札幌北光教会4階チャペル

一般前売 2,500円 当日 3,000円

25歳以下 2,000円

オンラインストア・窓口 TEL.0570-00-3871
セコマコード D24071302

石狩バスツアー

一再エネ基地化する新港周辺と
石狩アイヌゆかりの地を訪れる一

7月6日（土）9:00～16:00

集合 8:45 JR 札幌駅北口団体バスターミナル
参加費 4,000円（現地徴収）

申込はウェブサイト <https://sapporoyu.org/>
または上記QRコードより

自然食ホロ



札幌市東区中沼西
5条2丁目3-16
TEL: 887-6224

いつも喜んで、
感謝して。

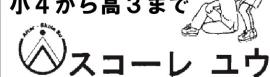
<http://holo.sunnyday.jp/>

いつだって No Nuke !



北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

Simple Life, High Thinking



〒007-0866 札幌市東区伏古6条4丁目4-21
TEL. 785-0228

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F 501

・郵便振替口座： 02780-5-47036 (名義：自由学校「遊」)

- ・TEL:011-252-6752
- ・FAX:011-252-6751
- ・syu@sapporoyu.org
- ・<https://sapporoyu.org/>



web サイト



F B ページ

